

# 丸い壁・光る泥団子の魅力 ～INAX ライブミュージアム展示まで～

八代研究室

00312176 木村敏樹

## 1. はじめに

光る泥団子作りは、元は左官の勉強のために、3学年の10月頃に始まり、その後の一年以上の活動も含め、卒業制作としてまとめた。

## 2. 光る泥団子とは

光る泥団子は、東京・千石の左官、榎本新吉氏が開発したもので、左官技術を用いて作る丸い壁であり、最後の仕上げには、最高級仕上げである大津磨きを改良した、現代版大津磨きを施す。大津磨きとの大きな相違点は、石灰クリームを使用する点である。左官仕上げの光る泥団子の魅力はそれだけではなく、一度見た人がみな「どうやって作るのだろうか？」という疑問がわいてくることだ。実際に土・砂・藁を混ぜて芯を作り、乾かして塗り重ねるといった工程で、楽しみながら知らず知らずのうちに土壁を学んでいるということだ。この光る泥団子は、最近では知っている人も少なくなってしまった日本の左官壁をもう一度一般の人たちに広めてくれる大きな存在のような気がする。

## 3. 今までの活動



■写真 1-1 夏祭 (06/7/22) ■写真 1-2 INAX (06/8/21)

はじめは勉強のために作り始めた泥団子も、研究を続け、社会的に認められるようになると、お祭やイベント、その他にも、ものづくり大学のある行田市やインターンシップ先にもなった INAX でも講習会を

行った。光る泥団子には、不思議な魅力があるようで、一回講習会を開くと、次々と色々な場所に呼んでいただいた。光る泥団子を教えたことにより、多くの人たちに、土や左官の魅力を伝えることができたと思う。

## 4. 光る泥団子の作り方 《基本編》



写真 2-1 芯を乾かす



写真 2-2 芯に土を付ける



写真 2-3 丸く削る



写真 2-4 藁を焼く



写真 2-5 砂漆喰を塗る



写真 2-6 ノロを塗る



写真 2-7 ビンで磨く



写真 2-8 完成

## [材料比]

□芯 土：砂：藁 (1：1：1)

□砂漆喰 石灰クリーム：砂 (1：1)

□ノロ 色土：石灰クリーム (1：1)

※土は粘土(粒子が 0.002 mm以下)でないと固まらないので注意。

※砂漆喰とノロには使う際に糊を足す。

①材料(土・砂・藁)を丸めピンポン球くらいの芯を作り、完全に乾燥させる。(写真 2-1)

②芯に、もう一度①と同じ材料を厚さにして 10 mmほどつける。(写真 2-2)

③少し乾いたら、手で形を整え、塗り重ねと乾燥を数回繰り返す、好みの大きさにする。

④円筒型のノコギリ(ホールソー)を使い、丸く削り出す。(写真 2-3)

⑤削った後は表面に飛び出した藁を、バーナーで燃やす。(写真 2-4)

⑥団子に砂漆喰をフィルムケースなどで均等に塗り、下地を作る。(写真 2-5)

⑦ここから仕上げに入る。砂漆喰で下地を作った団子の上に、ノロを塗り、フィルムケースなどでクルクル薄く塗り広げる。乾いたら反対側も同様に塗り、乾かす。この工程を数回繰り返す、乾燥させる。(写真 2-6)

⑧乾燥させた団子の表面に⑦のように、再度ノロを塗り、薄く均等にのぼしてから、ビンの口を表面にあて、回しながら優しく磨いていく。(写真 2-7)

⑨光って透明感が出てきたら完成。(写真 2-8)



応用編になると、一輪挿し(写真 3-1)や、色土の種類を増やし、様々な色のノロを作ることで、ノロの重ね方や混ぜ方などを工夫すれば、大理石風の模様の物を作ることも可能になる。

■写真 3-1 一輪挿し《応用編》

## 5. INAX ライブミュージアムでの展示

2006 年 10 月愛知県常滑市の INAX ライブミュージアム館内「土・どろんこ館」のオープンに際し、光る泥団子の展示依頼があった。展示スペースは館内のロフト部分(写真 4-1)にある百土箱で、一つ一つの引き出しが、小さな土の企画展になっている。



■写真 4-1 INAX のロフトスペース

百土箱(400 mm×300 mm×150 mm)の限られたスペースの中で、泥団子、土、左官の魅力を伝える展示方法にしたいと考え、百土箱の底には、土壁を敷くことにし、誰でも一目で土だと分かるように、細かいヒビ割れを入れた仕上げにした。また、泥団子が転がらないように透明の亚克力板に丸い穴を開け、そこに泥団子をはめ込み、展示した(写真 4-2)。



■写真 4-2 完成した百土箱

## 6. まとめ

一年以上の活動を行ない、最終結果を INAX での展示という形にし、作って終わりではなく、永久的に残り続ける卒業制作にすることができた。

【謝辞】 本制作を行うにあたり、御指導いただいた榎本新吉氏、三木きよ子さん、ならびに(株)INAX の皆様より、多大の御協力を得ました。ここに記し深謝致します。

【参考文献】『CONFORT』土と左官の本 3：建築資料研究社 2005. 5